

てんじん

運携ニュース

独立行政法人
国立病院機構 甲府病院
（山梨県甲府市東通町十五番二十五）
発行責任者
院長 長沼博文

2006年6月1日発行
第6号

<http://www.hosp.go.jp/kofu/>



雑感

外科系診療部長 深田 幸仁

今年もはや五ヶ月がすぎ、梅雨が近づき一年中で最もうっとうしい時期になりました。

私は当院で外科系診療部長をしていますが産婦人科の深田幸仁です。今まで若いつもりでいましたが医師の資格を取得し、はや約二十年近く経過しました。最近なぜかわかりませんが当院に通院している妊婦さんや婦人科患者さんから頻りに同じ質問されることがあります。それは、「なぜ産婦人科医になったのですか。」という質問です。

産婦人科医になった理由は二つあります。ひとつは、産婦人科は内科的治療と外科的治療のいずれもできるので一人の女性に対する一貫したオーダーメイドの治療が可能な科であるから

です。

もうひとつは数多くある診療科の中で慶事を扱うことができる、つまり「おめでとー」の一言を言える唯一の科であることです。私はこの一言を言いたいため産婦人科医を続けていたと言っても過言ではありません。ただこれが現在問題となっており産科医減少の主要原因であることをみなさんは気がついているでしょうか。「おめでとー」の一言を言えるということは、逆の表現をすれば「うまくいって当たり前」ということなのです。したがって母見いずれかに何らかのトラブルが生じれば、その診療行為に問題がなくともすぐに医療ミスと結び付けられて考えられてしまいがちです。ただ

でさえ昼夜を問わず勤務する産科医には肉体的な負担が大きいところに医療訴訟と背中合わせで診療を行なうという精神的な負担が増大する現状では、医師過剰といわれ医師数が増加する今後も他診療科医師と同等の扱いしか受けられないのであれば産科医は減少することはあっても増加することは期待できないと思います。医師研修制度が変わり研修医の多くが大都市の大学病院および一般病院で研修することも地方病院の産科医減少の悪循環に拍車をかけています。みなさん、新聞およびテレビなどで「三重県の尾鷲市立総合病院では年収五、五二〇万円で一開業医を一年契約で産婦人科医として雇用した。」という記事を御覧になったことはありませんか？もはやお金でしか問題解決できないところまできているのかもしれない。

険山梨病院、加納岩総合病院が六月末で分娩取扱いを中止します。そして上野原市、大月市、韮崎市、北杜市、南アルプス市、南巨摩郡、北都留郡には分娩を取り扱う医師が一人もいないのです。この三十名の分娩取扱い医で県内の出生数の九割にあたる約七千分娩（山梨大学医学部附属病院と県立中央病院以外の分娩数）を扱っているのです。当院はわずか三名の産婦人科医師ですが、二〇〇五年には年間七三三分娩（県内出生数の約一割）を取り扱い、新生児集中治療室を有することからハイリスク分娩も多く、質および量いずれにおいても山梨県内トップクラスの施設といえます。

以上、述べたように産婦人科はマンパワー不足が一番の悩みで外来診療を8:30～17:00までフルタイム予約制で診療していても待ち時間が長くなってしまい御迷惑をおかけしています。今後マンパワー不足が解消されれば妊娠前及び出生前診断特殊外来（既往妊娠分娩歴異常症例への妊娠前対応、超音波専門医による産科超音波外来など）や胎児ドックなどの外来診療部門を新たに開設し当院の特徴をさらに生かした診療を行っていきたくと考えています。

診療科案内

整形外科・リハビリテーション科

リハビリテーション科部長 萩野 哲男



整形外科は、骨折、捻挫などの外傷はもとより、四肢の関節、靭帯、腱などの運動器の疾患を扱う診療科であります。当院には平成九年以来、山梨大学医学部整形外科教室より医師が派遣され、現在は常勤医三人で外来診療、入院加療、さらには手術を行ない、山梨大学病院と連絡をとりながら最新の整形外科医療を行っております。

当院は二次救急輪番制病院であることから交通事故などの外傷患者を積極的に受け入れ、その治療を行っています。四肢のあらゆる骨折、脱臼に対応可能で、手術適応のある患者には創外固定器を利用するなど最小侵襲での手術を施行し成果を上げています。また頻度の高い高齢者の大腿骨頭

部骨折においては、最新の内固定材も使用し(図1)、小切開での手術に取り組み、早期離床、リハビリテーションにより早期退院、寝たきりの予防に力を入れていきます。

平成十七年からは関節鏡ならびに膝関節疾患専門の落合医師が加わり、膝関節疾患(特にスポーツ外傷)に対して、これまで以上に幅広く対応できる体制がとれるようになりました。

最近ではスポーツによる膝半月板損傷はもとより膝前十字靭帯損傷や軟骨損傷に対する鏡

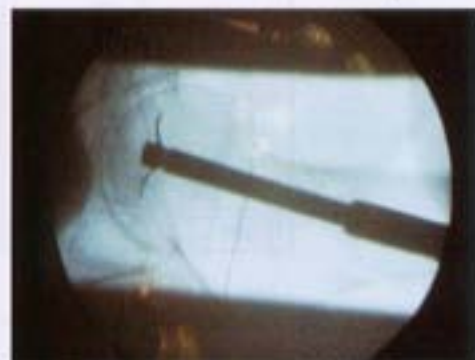


図1:日本で最初に使用したHansson Twin Hookシステムの術中イメージ像



図2:膝屈筋腱から作製した再建用靭帯

視下手術や靭帯再建術を最新の関節鏡システムを使用して積極的に行っていきます。山梨県下には膝関節外傷専門、特に靭帯再建術を積極的にやっている病院はないため、徐々に紹介患者数も増加し、平成十八年に入ってから既に十件以上の半腱様筋腱を使用した前十字靭帯再建術を施行し(図2、3)、概ね良好な成績を上げていきます。今後、膝関節の疼痛や不安定性等のある症例がありましたらご紹介いただければ幸甚に存じます。

またリハビリテーションの分野では今年度から理学療法士が増員となり、スタッフ五名となりました。当科のスタッフは患者とのコミュニケーションを大切にし、お互いの理解を深め、最良のリハビリテーションの提供者でありたいと日々、自己研鑽に励んでいます。今後は今以上に入院患者の早期社会復帰を目指したりハビリテーションが充実されていくところであり

ます。今後も地域の中核を担う急性期病院を目指し、またスポーツによる外傷にも十分対応できるように、真心のこもった医療を展開できれば幸いです。そして広く山梨県各地から訪れてくれる患者の期待に応えていけるよう真摯に診療に望んでいきます。



図3:再建した前十字靭帯の関節鏡視像



職場紹介

5病棟紹介

5病棟看護師長 堀部 道子

じめじめとした季節が近づいてきました。健康な人にもつらい時期です。

さて、当5病棟は、かつて国民病と恐れられた結核の病棟です。結核は、今でも世界的規模

の感染の症です。山梨県は、結核発病率が低

い県です。そして当院は、県内でも最大の結核入院定数の五〇床を有し、結核診療の中心的役割を担っています。そのため、ほぼ山梨県全域から、患者様がいらしています。結核は、感染症です。かつて恐れられた結核も、今では治る病気になっています。ただし、WHO（世界保健機構）が提唱している標準治療を基にした、結核の治療を確実に実施することが大切です。そのお手伝いを、呼吸器科医長を中心として、内科はもとより、当院各科医師の協力の下、看護スタッフ、薬剤師、栄養士、検査技師、MSW（医療ソーシャルワーカー）がチームを組んで実施しています。

結核は感染症ですから、



食堂・談話室の自動販売機



病棟入り口の自動二重扉



保健所との連携も重要で、月一回以上、保健師の方々との話し合いを持っています。病棟の構造も特殊で、入り口は二重ドアとなっています。また、許可が出ない限り患者様は病棟外に出ることが出来ませんので、自動販売機や洗濯コーナーがあります。他に直接には感じることにはないのですが、空調



設備も特殊なフィルターが設置され、各病室は陰圧設定で、結核菌が外に出にくい構造となっています。過去に、結核にかかったことのある方や、他の病気やその他様々な要因から免疫力の落ちた方などが、結核の疑いで入院されることがあります。



そのような場合は、まずは、個室に入って頂き、状況を見て治療が始まります。治療開始時に患者様にお渡しするのが、DOTSノートです。これの活用で、患者様が治療内容や治療の効果を確認出来るようになっていきます。又、結核についての知識を持ち、治療に積極的に取り組んで頂くために、結核教室も開いています。今の結核は、他疾患の合併症のような状況になっています。そのような患者の皆様に対し、患者様個々が持っている基礎疾患のみならず、結核治療の遂行ができ、一日も早く退院できるように、チームが一丸となり援助して行こうと考えております。

外 来 診 療 担 当 表

平成18年5月1日現在		月	火	水	木	金
内 科	1	渡 邊	川 口	渡 邊	渡 邊	渡 邊
	2	黒 澤	黒 澤	黒 澤	川 口	黒 澤
	3	川 口	尾 畑	高 木	中 尾	高 木
	4	高 崎	高 崎		高 崎	
	5					
脳神経外科	5		長 沼			長 沼
特殊外来 <small>午後3:00～</small>		高 木		高 崎		高 崎
神 経 科			平 野・塩 江			
消 化 器 科		河 口	角 田			河 口
小 児 科 <small>朝 外 来 （午後） （午後）</small>	1	久 富	稲 見	久 富	久 富	稲 見
	2	島 村	鈴 木	宗 像	島 村	鈴 木
	3	畠 山	中 根	中 村	畠 山	神 谷
	3	中 村	畠 山	神 谷		中 根
外 科		鈴 木		角 田	鈴 木	角 田
整 形 外 科	1	萩 野	原 田	原 田	萩 野	萩 野
	2	原 田	落 合	落 合	落 合	原 田
泌 尿 器 科		相 川	川 口	相 川	相 川	相 川
産 婦 人 科	1	深 田	深 田	高 木	深 田	深 田
	2	伊 東	高 木	伊 東	伊 東	高 木
眼 科		古 市	古 市	古 市	手 術 日	古 市
耳 鼻 咽 喉 科					矢 崎	

- | | | | |
|------------|------------------|----------|-------------------|
| ※乳児健診(小児科) | 毎週 火・木曜日 (完全予約制) | ※高齢者検診 | 毎週 木曜日 (完全予約制) |
| ※予防接種(小児科) | 毎週 水曜日 (完全予約制) | ※結核検診 | 毎週 月・水・金 14時から16時 |
| ※人間ドック | 毎週 火曜日 (完全予約制) | ※毎月第4金曜日 | 黒澤医師 糖尿病教室 |
| ※脳ドック | 毎週 火・金曜日 (完全予約制) | | |

編集後記

”DPCC研修会が
開催されました”

先月号でお知らせした、七月からのDPCCの導入に向け、左記のとおり関係機関より講師を連え、職員を対象とした本制度の習熟研修会が盛況の内に開催されました。

4月7日(金)

三菱ウェルファーマ(株)

土井 勝弘 氏

4月25日(火)

山梨大学医学部付属病院

病院経営部長 佐藤 弥 氏

5月12日(金)

国立病院機構埼玉病院

副院長 関塚 永一 氏

事務部長 今村 孝雄 氏

各講師の先生方、大変有り難う御座いました。

(山)



第3回目講演する
埼玉病院 関塚副院長

医療連携室直通電話

TEL 055-240-6223
FAX 055-240-6225